

令和元年6月22日現在

機関番号：24505

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K20812

研究課題名(和文) 祖父母の育児サポート力向上に対する「孫育て支援プログラム」の開発

研究課題名(英文) Development of "Raising Grandchildren Support Program" to Enhance Child Care Support Ability of Grandparents

研究代表者

藤本 優子 (Fujimoto, Yuko)

神戸市看護大学・看護学部・助教

研究者番号：10636616

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、「孫育て支援プログラム」の在り方を検討するために、孫育てに関して母親と祖母が必要と認識する知識と技術の違いを明らかにすることである。孫育てに関する知識と技術に関する20項目を藤本が独自に作成し、母親と祖母を対象に質問紙調査を行った。

全ての年齢(1歳未満・1～3歳未満、3～4歳未満)において、祖母よりも母親のニーズが高かった項目は、食事とおやつ・水分補給・スキンケア・口の中のケア・排せつの世話・衣類や温度/湿度の調節・睡眠・癪や行動への対応・病気や症状への対処・事故が起こった時の処置だった。母親よりも祖母のニーズが高かった項目は、祖父母が利用できる子育て支援サービスだった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、保育所や育児サークル等の公的な支援とともに、祖父母等の身近な親族からの支援が重要な育児支援資源として注目されている。一方で、健康寿命の延伸による老年期の延長とアクティブエイジングの多様化、祖父母の育児時代の常識と現代の親の育児方法や手技、考え方の違いにより、孫育てを負担に感じる祖父母も存在する。本研究により明らかにされた親と祖父母が持つニーズに関する知見は、孫育て教室や支援ツール作成等の孫育てプログラムを検討する際の基礎的資料となるものである。今後、これらの知見を活用した支援が展開されることで、孫育てをとりまく両世代のストレスや不安の緩和、家庭の養育力の向上につながることを期待される。

研究成果の概要(英文)：The purpose of the present study was to explore the differences in knowledge and skills recognized as necessary by mothers and grandmothers in order to look at what kind of program should be provided for raising grandchildren. A survey of mothers and grandmothers was conducted using a 20-item inventory of child care skills and knowledge for raising grandchildren developed by Fujimoto(2016).

Results suggested that at all the age groups (under 1 year old, 1 to 3 years old, 3 to 4 years old), the mean scores of mothers were significantly higher than those of grandmothers for the following categories: Foods and Snacks, Hydration, Skincare, Oral Care, Excretion Care, Adjustment of Clothes and Room Temperature/Humidity, Slumber, Coping Methods for Habits and Behavior, Coping Methods for Symptoms of Sickness, and Treatment for Childhood Domestic Injuries. The results for Child Rearing Services Available for Grandparents revealed significantly higher scores for grandmothers than for mothers.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：孫育て 子育て支援 母子保健 祖父母 支援プログラム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2014年、内閣府は少子化社会対策大綱において今後の子育て支援対策の視座として、祖父母などの親族や近隣など身近な地域社会で助け合いのネットワークが有効に機能することが必要であるとの見解を示した。近年、少子化や家族形態の多様化による家庭の養育力の低下に対し、親の子育てを身近でサポートする人的資源の重要性が指摘され、祖父母をはじめ親族の子育てサポート力が注目されている。

親を身近で日常的にサポートする親族としては、祖父母が最も注目されており、子どもの預かりなど直接的なサポートだけではなく、育児に関する相談など精神面に対するサポートまで(久井2013)、祖父母が果たす役割は多岐に亘る。昨今、核家族化が進んでいるものの、祖父母と同居(一時間程度で行き来できる距離)をして、祖父母からの育児サポートを望む親は多く(内閣府,2013)、遠居の場合でも交通機関や通信手段が発達していることから、現代においても育児支援者として祖父母の存在は大きい。

育児支援における祖父母の存在が注目される一方で、孫育てに関して必ずしも祖父母のサポートが有効に機能していないという問題が示唆されている。塚田(2011)は、母・娘世代間における育児意識の相違について、4ヵ月児健康診査の時点ですでに、親・祖父母ともにサポートに関して困った経験を持っていると報告している。また北浜(2011)は、祖父母が感じる育児の相違について、親と祖父母の育児観のギャップや、時代や環境による育児の変化を指摘している。祖父母が育児を経験していた約30年前、育児法のスタンダードは子の自立を重んじるアメリカ式育児が主流で、スキンシップや子どもの欲求を重視する現代の親とでは、育児観や育児方法に異なる部分も多い。祖父母の育児サポートを支援するためのニーズを見てみると、寺坂(2011)は、孫育て講座のニーズについて8割の祖父母が興味を示し、今の時代にあう最新の情報に関するニーズが高いことを報告した。このように、祖父母のサポートを有効に機能させるために、「サポートを受ける親」も「サポートを提供する祖父母」も孫育てに関する支援ニーズを持っている。

これまでの研究では、親・祖父母それぞれが持つ孫育てに関するニーズの実態と特徴についてほとんど明らかにされていない。昨今、各自治体等で祖父母向けの孫育て支援講座が開催され孫育てガイドブックが広がりを見せているが、その内容や具体的方法を検討するための知見はほとんどない。

本研究で親・祖父母双方の孫育てに関するニーズの実態とその特徴が明らかになることで、孫育て教室や支援ツール等、支援プログラムの内容、実施方法を具体的に検討することが可能となる。根拠に基づく効果的な支援プログラムにより、祖父母の育児サポートが有効に機能し、孫育てをとりまく両世代のストレスや不安の緩和、家庭の養育力の向上につながることを期待される。

2. 研究の目的

本研究は、親と祖父母が持つ「孫育て」に関するニーズの違いを明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

(1)研究デザイン

自記式質問紙を用いた量的横断研究

(2)研究対象者

包含基準

親世代：4歳未満の乳幼児を育てる親

祖父母世代：4歳未満の乳幼児を持つ親の育児をサポートした経験を持つ祖父母

除外基準

- ・祖父母が養育型サポートを行っているもしくは、日常的な世話を親以外が行っている
- ・多胎児、低出生体重児・継続した治療やリハビリを要する子(孫)を養育・サポートしている、または同一世帯にいる
- ・子(孫)の親が一人親である
- ・祖父母がサポートした世帯の最年少の孫が、現在中学生以上である

(3)調査方法

親世代：調査協力が得られた3か所の自治体の乳幼児健康診査、子育て支援センター、保育所を通して配布し、回収箱・郵送により回収した。

祖父母世代：調査協力が得られた3か所の自治体に設置されている高齢者大学、保育園の祖父母参観を通して配布し、回収箱・郵送により回収した。

(4)調査期間：2016年5月～2016年12月

(5)調査内容

属性

親世代

基本的属性：年齢、性別

社会的属性：子の人数、最長子の年齢、最末子の年齢と所属、養育状況、父母の就労形態、最も支援してくれる祖父母の年齢と続柄、居住の近接性

祖父母世代

基本的属性：年齢、性別

社会的属性：最も支援している世帯の孫の人数、最長子の年齢、最末子の年齢と所属、養育状況、父母の就労形態、最も支援している世帯の孫の母親と祖父母との続柄、居住の近接性

孫育てに関するニーズ：藤本が作成(20項目)

親と祖父母それぞれが持つ、孫育てに関するニーズの実態と特徴を明らかにすることを目的とし、申請者のこれまでの研究および先行研究・文献より抽出してまとめた内容をもとに、孫育てに関するニーズを問う20項目から成る質問紙を独自に作成した。作成においては、母子保健に精通した保健師2名、母子保健領域・子育て支援領域研究者からスーパーバイズを受け、内容妥当性を担保した。親は「祖父母にどの程度知っておいてほしいか」、祖父母は自身がどの程度知っておきたいか」を(子孫)の年齢別に(1歳未満、1~3歳未満、3~4歳未満)「1. 全く思わない」~「4. とても思う」の4件法で回答を得た。

(6)分析方法

親と祖父母の2群間の差を検証するために、Mann-Whitney U 検定を行った。有意水準は5%とした。

(7)倫理的配慮

調査は無記名とし個人が特定されないこと、調査への協力は自由意志であることを保証し、調査票の回収をもって同意を得たものとした。研究の実施に当たっては、神戸市看護大学倫理委員会に承認された計画に基づき実施した。

4. 研究成果

(1)親世代への調査

質問紙を1673部配布し、回収は872部(52.1%)であった。祖父母の支援を受けた経験があると回答した727名のうち、母親以外が回答している者、除外基準該当者、一定以上の欠損が有るものを除く447名を分析対象とした。

回答した母親の平均年齢は33.4±4.6歳、子どもの平均人数は1.9±.8人、最長子の平均年齢は5.6±3.0歳、最末子の平均年齢は1.3±1.2歳であった。最末子の所属は、保育園が53.5%で最も多く、次いで未就園が45.2%だった。就労状況は、父親では就労有(フルタイム・パート・アルバイト)が98.5%、母親が57.4%であった。居住の近接性は近居が68.9%と最も多く、次いで同居が16.8%、敷地内同居が8.5%であった。また、最も支援をしている子の母との続柄は、実母が68.2%、義母が31.8%だった。

(2)祖父母世代への調査

質問紙を1901部配布し、回収は977部(51.4%)であった。4歳未満の乳幼児を育てる親を支援した経験を持つと回答した585名のうち、祖母以外が回答している者、除外基準該当者、一定以上の欠損があるものを除く343名を分析対象とした。

回答した祖母の平均年齢は62.6±5.5歳、最も支援している世帯の孫の平均人数は2.1±.9人、最長子の平均年齢は8.0±3.8歳、最末子の平均年齢は3.8±2.7歳であった。最末子の所属は、保育園が56.6%で最も多く、次いで未就園が23.0%だった。孫の親の就労状況は、父親では就労有(フルタイム・パート・アルバイト)が94.5%、母親が69.4%であった。居住の近接性は近居が57.4%と最も多く、次いで同居が17.2%、敷地内同居が14.6%であった。また、最も支援をしている世帯の孫の母との続柄は、実娘が44.9%、義娘が55.1%だった。

(3)親世代と祖父母世代が持つ孫育てに関するニーズ

子(孫)の各年齢(1歳未満、1~3歳未満、3~4歳未満)において、親と祖父母が持つ孫育てに関するニーズの違いについて検証するために、孫育てに関するニーズ20項目について、Mann-Whitney U 検定を行った。その結果、全ての年齢群で祖父母より母親のニーズが有意に高かった項目は「食事やおやつ」「水分補給」「スキンケア」「口の中のケア」「排せつの世話」「衣類や温度/湿度の調節」「睡眠」「よくある癖や行動とその対応方法」「病気や症状への対処」「事故が起こった時の処置や対応」であった。一方、全ての年齢群において母親よりも祖父母のニーズが有意に高かった項目は、「祖父母が利用できる子育て支援サービス」であった。

(4)考察

・孫育てに関するニーズのうち、『食事やおやつに関すること』『排せつに関すること』等、日

常的な世話に関するほぼ全ての項目において、祖父母と比較して親のニーズが高かった。親は日常的な世話における支援者として、祖父母に期待を寄せていることが示された。また、これらの日常的な世話には、祖父母の育児時代から手技や内容が変化しているものも含まれており、親は祖父母に最新の技術・知識を知っておくことを希望していると推察された。

・子(孫)の病気や事故など、有事の際の対応やその予防に関するほぼ全ての項目において、祖父母と比較して親のニーズが高かった。子(孫)病気の際の預かりを祖父母に依頼したり、所用で保育を依頼するにあたり、親が安心して預けるために本項目のニーズが高かったと考えられる。

・ほとんどの項目において、祖父母のニーズと比較して親のニーズが高い傾向がみられた。これらの項目の特徴を明らかにすることで、「孫育て」に関する具体的な支援の検討につなげることができる。今後、孫育て教室や支援ツールの内容や方法を検討し、開発につなげていく予定である。

・本研究で調査対象とした祖父母は、「孫育て」の経験はあるものの孫育てを担った事情や背景は反映されていない。今後、これらの状況や祖父母の負担などの諸要因とニーズを関連付けながら、親・祖父母双方にとって効果的な支援方法を検討する必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計2件)

Fujimoto Y, Otsuki N, Tsuzuki C, Konishi K, Differences in knowledge and skills recognized as necessary by mothers and grandmothers for raising grandchildren in Japan, 22nd EAFONS, 2019

藤本優子,大槻奈緒子,綱井仁美,白井文恵,都筑千景,小西かおる,親世代・祖父母世代が持つ「孫育て」に関するニーズの実態、第77回日本公衆衛生学会、2018

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1)研究分担者

なし

(2)研究協力者

研究協力者氏名：小西かおる

ローマ字氏名：Konishi Kaoru

研究協力者氏名：藤原美輪

ローマ字氏名：Miwa Fujiwara

研究協力者氏名：永田かおり

ローマ字氏名：Kaori Nagata

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。